

2014年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	情報工学科						
科目名	数理統計学						
科目区分	専門科目	単位数	2	開講時期	前期		
必修・選択の別	選択						
担当者	金光滋						
授業の到達目標 (シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・連続・離散型の確率変数の期待値、分散、標準偏差を計算できる。 ・中心極限定理を正しく使うことができる。 ・正規母集団の母平均の推定ができる。 ・検定の技法を用いてデータの解析ができる。 						
日程と内容	<p>4/9 導入講義</p> <p>4/16 確率変数と確率分布：連続・離散確率変数とその確率分布を理解する。</p> <p>4/23 確率変数の期待値・分散・標準偏差：確率変数の期待値・分散・標準偏差を求める。</p> <p>4/30 同時確率分布・確率変数の独立性：二つの確率変数の同時確率分布を理解し、それらが独立であるとはどういうことか理解する。</p> <p>5/7 正規分布Ⅰ：最も重要な確率分布である正規分布の分布関数を理解する。</p> <p>5/14 正規分布Ⅱ：正規分布の用い方に習熟する。</p> <p>5/21 中心極限定理Ⅰ：中心極限定理の意味を理解する。</p> <p>5/28 中心極限定理Ⅱ：ドモワブルプラスの定理を理解する。</p> <p>6/4 補講 中心極限定理Ⅲ：シャノンの通信理論を理解する。</p> <p>6/11 中心極限定理Ⅳ：エントロピーによって中心極限定理を理解する。</p> <p>6/18 種々のエントロピー：熱力学第二法則との関連でレニユイα-エントロピー等を理解する。</p> <p>6/25 ダイアコニスの理論：対称群上のフーリエ変換等を理解する。</p> <p>7/2 確率空間としての母集団・確率変数としての標本・正規母集団：確率変数を数理統計学に応用する枠組みである母集団とその標本の意味を理解する。</p> <p>7/9 仮説検定：帰無仮説検定を理解する。</p> <p>7/23 定期試験（90分）</p>						
成績評価基準	定期試験	70%	実技				
	臨時試験		部外評価				
	報告書・レポート	30%	プレゼンテーション				
	課題		計	100%			
	演習						
授業到達目標の達成度	すべて達成した。						
反省点	なし。						
来年度の計画	今年度と同様である。						
授業評価アンケートに対するコメント	出席率がよくない生徒がかなりの数存在した。						
履修登録者数	51名	定期試験 受験者数	47名	合格者数	47名	合格率	100%